

6月の海面水温が下がっ鱈?-マダラ0歳魚量と水温変動との関係-

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-05-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清水, 勇吾, 成松, 庸二 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006393

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



6月の海面水温が下がっ鱈？

—マダラ0歳魚量と水温変動との関係—

くせのない白身魚で、鍋料理やフライなどの材料によく用いられるマダラ（写真1上）は、三陸～常磐の港でも多く水揚げされます。マダラは冬に水深数十mの浅い場所で卵を産み、ふ化した仔魚（写真1下）は5～6月まで100m以浅で浮遊生活をした後、底に着いて（着底）、水深数百mの海底に移動します。また、大規模な回遊はせず、三陸～常磐海域で着底したものは、基本的にその海域内に留まると考えられています。

私達は、海洋環境の変動が三陸～常磐海域のマダラ幼魚の生き残りにどのように影響するかを明らかにするため、1996～2007年の各年10～11月に漁業調査船若鷹丸で行った底曳き網調査によるマダラ0歳魚の推定資源量と、その年の水温との関係を、図1に示した本州太平洋側北部海域・南部海域それぞれにおいて調べました。

その結果、両海域とも6月の海面水温との間に強い負の相関（図2）が見られました。

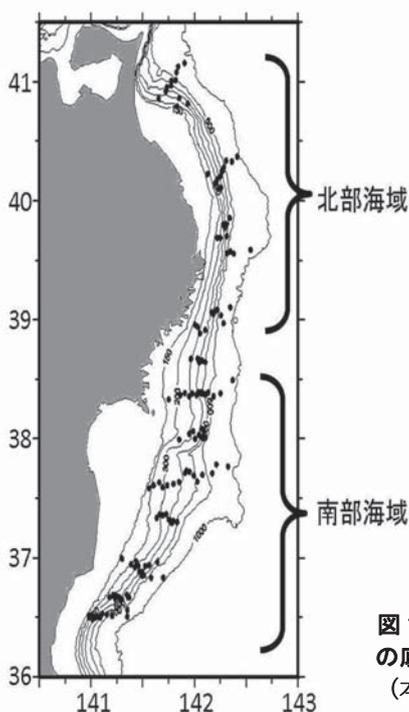


図1. 2007年10～11月の底曳き網調査点の例（本州太平洋側）

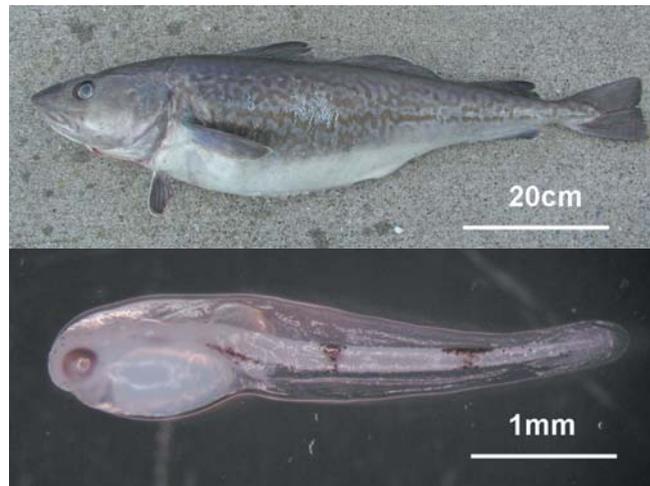


写真1. マダラ成魚（上）とふ化直後のマダラ仔魚（下）

このことから、マダラの着底期にあたる6月の水温が高ければマダラの生き残りが悪くなると推測されます。今後は、着底期前後のマダラの餌環境と被食を含めた詳しい調査と解析を行い、マダラの資源変動との関係を明らかにしたいと思います。

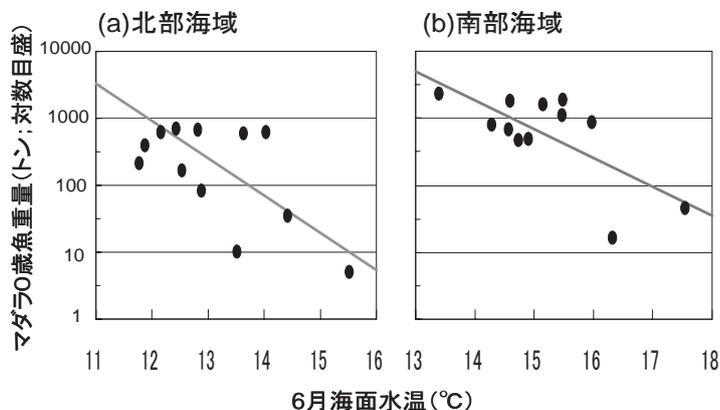


図2. 北部海域・南部海域それぞれの6月海面水温とマダラ0歳魚重量の対数との関係

（黒点は、ある年の6月期の海面水温（平均値）と10～11月期のマダラ0歳魚の推定資源量（平均値）を示す）

この研究に取り組んでいる



海洋動態研究室の清水勇吾主任研究員



資源評価研究室の成松庸二主任研究員